

貿易ヲ取締ルコト、セリ、日本來航船ノ數ハ初メ定數ナカリシカ後ニハ漸ク之ヲ減シテ毎年二隻トナセリ、

おらんだ船出帆ノ後毎年一月乃至三月ニ商館長ハ次席事務員書記醫師通詞年番料理人等ヲ率キ奉行所ノ番所衆同心ニ伴ハレ陸路小倉ニ至リ、同所ヨリ下關ニ渡リ此所ニテ海路發送セル荷物ヲ待受ケ新ニ仕立テタル船ニテ大阪ニ出テ京都ヲ經テ江戸ニ行クヲ常例トナセリ江戸ニ於テハ將軍ニ謁シ老中以下幕府ノ重職ニ在ルモノ、家ヲ歴訪シ贈物ヲナセシカ其價格ハ將軍家ヘノ献上品一千乃至一千四百ぐるでん其他ノ贈物合セテ三四千ぐるでんニ達シ途中竝ニ江戸滯在中ノ諸費ト合算スレハ上府ノ費額總計六七千ぐるでんニ上リシカ當時輸出入品ニ對シテ關稅ヲ課スルコトナカリシカ故ニ商會ハ之ヲ稅ト見做シ其負擔ヲ以テ寧ロ輕キモノト思惟セリ、

おらんだ人ハ常ニ出島ニ居リ日本人ニ接シ日本ノ事物ヲ觀察スルノ機ナカリシカ故ニ此上府ハ途上竝ニ江戸滯在中取締極メテ嚴ナリシニ拘ハラヌ日本ニ關スル智識ヲ得ルソ最良時機ニシテ寛永鎖港後おらんだ人ノミ日本ニ來ルコ

ト、ナリタル後歐洲諸國ノ人ハ上府ノ際ニナセル觀察ニ基キテ著サレタルけんべる、つーんべるぐ、しいぼると等ノ書ニヨリテ僅ニ日本ノ國情ヲ窺ヒ知ルコトヲ得タリ

けんべる (Engelbert Kaempfer) ハ北ドイツノりつべ (Lippe) ノ人ニシテぱーらんど (Poland) ノくらかう (Cracow) 及ヒぶろしや (Prussia) ノけーにぐすべるぐ (Koenigsberg) ノ大學ニ於テ醫學ヲ修メ後おらんだ東いんど商會ノ醫員トナリテいんど、すまとら、じやばヲ巡歴シ千六百九十年五月ばたびやヲ發シテ九月廿二日長崎ニ着セリ日本在留中千六百九十一年及ヒ九十二年ノ兩度館長ニ從ヒテ江戸ニ至リシコトアリ千六百九十二年十一月日本ヲ去リばたびやヲ經テあむすてるだむニ着シ其郷里ニ歸リテ醫業ニ從事シ千七百十六年ニ死セリ、其著外國見聞錄 (Amenitates Exoticae, 1712) ニハ日本ノ概況、植物ノコト及ヒ製紙ノコトヲ載セ、日本歴史 (History of Japan, 1727) 此英譯ニ次イテ蘭語原書及ヒ佛獨文譯書出版セラレタリニハ其ノ見聞ニ係ル日本ノ諸事及ヒ畧史ヲ掲ケ我邦ニ關スル智識ヲ西洋ニ弘メタリ、おらんだ商會ノ日本貿易ノ狀況、商會員ノ日本ニ於ケル生活ノ狀態



等ニ付テハ本書ハ最好ノ史料タリ、  
 づいんべるぐ(Charles Peter Thunberg)ハすうすいでん(Sweden)ノ醫師ナルカ藥草採  
 集ノ爲メ東洋ニ來リ千七百七十五年六月おらんだ東いんど商會ノ醫師トシテ  
 ばたびやヲ發シ八月長崎ニ着シ翌年江戸ニ至リ後歸國セリ其ノ著ハシタル日  
 本植物誌 (Flora Japonica, 1784) ニハ約千種ノ植物ヲ説明シ日本旅行記 (Voyages  
 au Japon, 1796) すうすいでん語ノ原書ハ千七百八十九年ヨリ九十三年ニ亘リテ  
 公刊セラレ、獨語英語等ノ譯書續イテ出テタリニハおらんだ貿易ノコト及ヒ日  
 本ノ諸般ノ事物ヲ記載シ興味アル書ナリ、  
 しるぼると(Philipp Franz von Siebold)ハ南どつづべりや(Bavaria)ノ人ニシテうゆ  
 るつぶるぐ(Würzburg)ノ大學ニ於テ醫術ヲ學ヒ千八百二十二年おらんだ東いん  
 ど商會ノ議員トナリテばたびやニ至リ翌年六月同所ヲ發シ八月長崎ニ入港セ  
 リ、長崎ニ於テハ商館員ノ治療ニ従事スル外奉行ノ許可ヲ得テ長崎ノ醫師等カ  
 設立シタル鳴瀧ノ校舍ニ於テ醫學及藥學ヲ講シ又日本人ノ難治ノ病ニ罹レル  
 モノ、診療ヲナセリ、千八百二十六年二月江戸ニ上リ三ヶ月間滞在シ、千八百二

十八年再ヒ上府シ此間日本ニ付テ大ニ研究スル所アリキ同年冬ばたびやニ向  
 ヒテ出發セントセシ際日本ノ地圖、繪圖、武器等禁制ノ品ヲ携ヘタルコトヲ發見  
 セラレ留メラレテ出島ニ禁錮セラレ高橋作左衛門等彼ヲ助ケテ禁制品ヲ得セ  
 シメタルモノハ獄ニ投セラレタリ、千八百三十年ノ初メニ至リテしいぼるとハ  
 罪狀決定シ日本ヲ逐ハレタルカペるり(Commodore Perry)來朝シ我邦再ヒ開國ス  
 ルニ至リテおらんだ政府ノ盡力ニヨリしいぼると入國ノ禁解ケ千八百五十九  
 年しいぼるとハ再ヒ日本ニ渡來シ千八百六十一年ヨリ江戸ニ在リテ外國事務  
 ノ顧問トナリシカおらんだ人等反對スルモノ尠カラス一年ニ滿タスシテ又日  
 本ヲ去リ長崎ばたびやヲ經テ千八百六十四年おらんだニ歸リ後職ヲ辭シテ故  
 郷ニ退隱セリ、其著日本誌(Nippon: archiv zur beschreibung von Japan, etc, 1832)及ヒ動  
 植物其他ニ關スル雜著ハ大ニ學界ノ珍重スル所ナリ、其ノ蒐集セシ日本品ハ、今  
 ねらんだ國らいてんノ博物館ニ陳列シアリコレ亦大ニ珍重セラル  
 びいてる、のいつ事件ノ落着後おらんだカ臺灣ニ施設セシ事業ハ前ニ畧述セル  
 カ其ノ漸ク緒ニ就クニ及ンテ支那本土ニ於テハ北方ヨリ浸入セシ滿洲軍ノ勢



猖獗ニシテ明朝大ニ衰へ厦門ヲ根據トシテ明朝ノ恢復ヲ謀リシ國姓爺鄭成功  
 モ數次ノ戰利アラヌ漸次清兵ノ壓迫ヲ受ケテ終ニ厦門金門ノミヲ保有スルニ  
 至リシカハ千六百六十一年四月海軍ヲ整ヘテ臺灣ニ渡レリ、臺灣ニ於テハ千六  
 百五十五年頃ヨリ成功カ臺灣ヲ攻撃セントスルノ意アルヲ傳ヘ聞キ屢々ばた  
 びや政府ニ對抗準備ヲナサンコトヲ求メシカばたびや政府ハ無根ノ風説トシ  
 テ之ヲ等閑ニ附シ千六百六十年臺灣太守ノ請ニ基キテ警備ノタメ送リタル十  
 二隻ノ艦隊モ恐惶ノ理由ナシトシテ歸航セル後ニ至リテ成功ノ大軍來攻シタ  
 レハおらんだ人ハ抵抗ヲナス能ハス敵軍ハ臺灣ノ支那人ノ内應ヲ得テおらん  
 ぢや城ト相對セル馬線尾角ヨリ上陸シ先ツ二百五十人ヨリ成レルおらんだ軍  
 ヲ破リ進ンテ赤嵌ノぶろびんしや(Provintia)城ヲ圍ミテ之ヲ陷レ終ニおらんぢ  
 やヲ攻圍セリ、おらびや政府ハ歸航セシ艦隊司令官ノ報告ニヨリテ國姓爺來寇  
 ハ全ク臺灣太守こいえつと(Frederick Coyett)カ臆病ニシテ風説ヲ迷信セル誤報  
 ニ過キサコト、ナシ終ニ其職ヲ免シくれんく(Hermannus Clenck)ヲ後任トナセ  
 シカ七月末くれんく着任ノ際おらんぢやハ既ニ包圍中ニ在リシヲ以テこいえ

つとノ解任狀ト自己ノ任命狀トヲ城内ニ送り直ニ基隆ニ航シ此地モ亦到底維  
 持スル能ハストナシ守備兵竝ニ移民百七十餘人ヲ搭載セシ船ト共ニ日本ニ渡  
 リ後ニおらびやニ歸航セリ、おらびやニ於テハこいえつとヨリ危急ノ報告ヲ得  
 テ始メテ其執リ來リシ政策ノ誤レルヲ認メかーゆう(Jacob Caeuw)ヲシテ艦隊ヲ  
 率キテ赴キ援ケシメシカ八月中旬到着ノ節ハ暴風ノ爲メ入港スルコトヲ得ス  
 一時風波ヲ避ケテ九月再ヒ來リテ入港セシカかーゆうハ籠城軍ノ日ニ危ク救  
 フ能ハサルヲ見テ終ニ機ヲ見テ臺灣ヲ去リ暹羅ヲ經テおらびやニ歸航セリ、お  
 らんだ軍ハ是ニ於テ援軍ヲ失ヒ彈藥糧食モ亦缺乏ヲ告クルニ至リシカ故ニ續  
 ヲ脱レテ敵ニ降ル者アリ城内ノ狀況及ヒ防禦ノ弱點モ亦敵ニ知ラレタレハ千  
 六百二十二年二月こいえつとハ開城ニ決シおらんだ人ハ武器ヲ帶ヒ私有財産  
 ヲ携ヘ樂隊ニ伴ハレテ城ヲ出テ捕獲船及ヒ捕虜ノ解放ヲ受ケテおらびやニ渡  
 ルコト及ヒ商會ノ財産ハ一切敵ニ渡スコトヲ條件トシテ二月一日降伏條約ニ  
 調印シ兵士千人外官吏商人等及ヒ其家族并ニ所有品ヲ八隻ノ船ニ分載シテお  
 らびやニ向ヘリ、こいえつとハおらびやニ於テ危急ニ迫ラサルニ先チ降伏セシ



ヲ以テ罪ニ問ハレ特典ヲ以テ死刑ニ一等ヲ減シテばんだ島(Banda)ニ流サレ十二年ノ後漸ク許サレテ歸國セシカ等閑ニ附セラレタル臺灣(Verwaerloosde Formosa, 1675)ト題スル書ヲ著ハシ、占領晩年ノ歴史ヲ説キばたびや政府ノ失政ヲ論セリ、ばたびや政府ハ此後清朝ノ助ヲ借リテ國姓爺ヲ討タント謀リシコトアレトモ終ニ其效ナク臺灣ハ失ヒテ回復スルコト能ハサリキ  
 ちらんだハ右ニ述ヘタル如ク臺灣ヲ失ヒタルカ此ヨリ先キじやばヲ中心トシすまとら及ヒもろつか諸島ニ其勢力ヲ及ホシあんぼいな島(Amboena)ヨリハぼるとがる人及ヒ英人ヲ驅逐シまらつか(Malacca)セーロン(Ceylon)せれべす(Celebes)ヲぼるとがる人ヨリ奪ヒ漸ク英葡ノ勢力ヲ削キいんど及ヒ南洋諸島ニ於ケル貿易ヲ獨占スルニ至レリ、日本貿易ヲ專ニセシコトハ又大ニ其ノ東洋及ヒ南洋貿易ノ隆盛ヲ助ケタリ  
 我邦ニ於ケルちらんだ貿易ノ概況ハ前ニ述ヘタルカ連續二百五十餘年ニ及ヒ寛永ノ鎖國以後ハちらんだハ實ニ我邦ト歐洲トノ唯一ノ連鎖トナリタレハ彼ノ文明ヲ輸入スルニ於テハ妙ナカラサル效アリキ、初メ幕府ハきりすと教ヲ恐

ル、ノ餘リ蘭人ノ取締ヲ嚴ニシ蘭書ヲ讀ムコトヲ嚴禁セシカ將軍吉宗ノ代ニ及ヒテ天文曆算ノ學術ニ於テハ西洋ノ進歩著ルシキヲ認メ青木文藏號昆陽、甘薯先生ニ命シテ蘭語ヲ修メシメ其建議ニヨリ宗教ニ關係ナキ蘭書ノ禁ヲ解キ茲ニ蘭學隆盛ノ端緒ヲ開ケリ、次イテ中洋ノ藩醫前野良澤、蘭化先生、青木文藏ニ就イテ蘭學ヲ修メ後長崎ニ至リ通詞ニ就テ更ニ之ヲ研鑽シ明和八年小塚原ノ刑場ニ於テ罪囚死體ノ解剖ヲ見蘭書ト對照シテ其正確ナルヲ認メ同行ノ若狹藩醫杉田玄白ト共ニ人身内景圖説(Tafel Anatomica)ノ翻譯ヲ計リ四年ノ日月ヲ費シ稿ヲ改ムルコト十一回ニシテ始メテ脱稿シ安永三年八月解體新書ト題シテ之ヲ出版セリ、是ヨリ先キ紅毛談トイフ書ヲ著ハシ文中蘭語ヲ載セタルカ爲メニ絶版ヲ命セラレシモノアリ、良澤等ハ新刊ノ譯書ニ對スル幕府ノ處置如何アラント懸念セシカ終ニ事ナク世人亦此書ニヨリテ漸ク西洋學術ノ進歩ヲ認メ醫ヲ業トスルモノニシテ良澤玄白等ニ就イテ蘭學ヲ修ムル者益々多クちらんだ流ノ醫師漸ク多キヲ加ヘタリ、玄白ノ門人大槻玄澤、蘭學楷梯ヲ著ハシ蘭字ヲ載セ蘭語文法ノ初步ヲ説イテ初學者ノ便ニ供シ、寛政八年其門人稻村三伯ハる



文(Dalma)ノ蘭佛字書中ヨリ八萬餘言ヲ譯シはるま和訳ト題シテ之ヲ公ニシ幕府モ亦おらんだ商館長ドーム(道富Hendrick Doeff)ニ命シ通詞ノ助ヲ借リテ蘭和字書ヲ編セシメタリ、之ヲドームはるまノ字書ト稱セリ、後安政二年法眼桂川氏之ヲ訂正増補シテ出版セリ、和蘭字彙是ナリ、文化七年京都ノ人藤林泰介はるま和解ヲ省畧シ醫藥名ノ譯語二千七百ヲ附シ譯鍵ト名ケテ出版セリ、此ノ如ク字書文法書ノ著アリ蘭語ヲ學フノ便多ク蘭學者ノ數モ從テ増加セリ而シテ始メ蘭學者ノ目的トセシハ外科ナリシカ寛政四年津山藩醫宇田川玄隨蘭書ヲ譯シテ西説内科撰要及ヒ東西病考ヲ著ハシ、蘭法内科ノ學說ヲ傳ヘ、文化十年吉田長叔始メテ内科ノ業ヲ開キタル後内外科共ニ蘭法漸ク勢ヲ得タリ、醫學ニ伴ヒテ動植物ノ研究盛ニナリ物理學ニ於テハ平賀源内、油繪ニハ司馬江漢等輩出シおらんだノ學術彌々弘マレリ、大砲ノ鑄造及ヒ扱方モ亦おらんだ人ニ學ヒ兵學モ亦之ヨリ傳ヘタリ、長崎ノ高島四郎太夫、伊豆斐山ノ江川太郎左衛門、松代藩ノ佐久間象山等皆有名ノ西洋砲術家軍學者ナリ、おらんだ人ハ右ノ如ク永ク西洋文明輸入ノ媒介タリ蘭學ノ行ハル、コトモ久

シカリシカ故ニ歐米諸國ト通交スルニ及ヒ文化六年大小通詞中數人ヲ選ヒテ露語及ヒ英語ヲ修メシメ同八年ニハ通詞一統ヲシテ右二國語ヲ學ハシメ次テ佛語モ亦行ハル、ニ至リシカ蘭語ハ依然トシテ我邦ト歐洲諸國トノ間ノ交通語タリ明治ノ初年ニ至リテ始メテ英語ヲ代用スルニ至レリ、左レハ外國ヨリ輸入セシ事物ノ名稱等蘭語ノ我國語ニ採用セラレタルモノモ尠カラサルヘキカ英語盛ニ流行スルニ及ヒいざりす流ノ稱呼從前ノ名稱ニ代リタルモ尠カラサレハ今日我國語中ニ存スルおらんだ語ハ甚タ多カラス左ニ其ノ主要ナルモノヲ掲クヘシ

吳紹服、吳呂福林	織物	grofgrein	讀方 グロフグライン
ヅック	織物	doek	ズーク
ブリキ	鐵葉	blik	ブリク
オルゴル	樂器	orgel	オルゲル
カーヘル	暖爐	kachel	カッヘル
メス	小刀	mes	メス



マドロス	水夫	matroos	マトロース
唐國鳥	七面鳥	kalkhoen	カルクフーン
ドンタク	日曜日、休日	zondag	ゾンダク

【註】おらんだ語ニテハgハどいつ語ノchト同シク發音スレトモ我邦ニテハぼるとがる語ト同シク常ニぐト發音セリ故ニ此所ニハほろゝふほらいんヲぐるゝふぐらいん、あるへるヲあるけるト讀メリ。

### 第八章 いざりすノ東洋貿易

いざりすカ初メテ東洋貿易ニ着目セシハ十六世紀ノ末ニシテ千五百八十年ニハ東北ノ航路ヲ取りテ東洋ニ出テ支那日本ニ至ラント試ミタルコトアリ、千五百八十二年ニハすちぶんす(Captain Stephens)喜望峰ヲ廻リテいんどニ至リ千五百八十六年ニハさやべんぢつし(Cavendish)いんどヲ經テふいりつびん諸島ニ渡リ三年ノ後ニ歸國シ是ヨリ東洋ノ事情漸ク明ニナリ千五百九十三年東洋ヨリ歸航中ノぼるとがる船ヲ捕獲シ其ノ多ク珍奇ナル東洋貨物ヲ搭載セルヲ見テ

益々東洋貿易ノ利ヲ想フニ至レリ、千五百九十八年りんすほいてんノ航海紀英譯セラル、ニ及ヒ東洋航路ニ關スル智識確實トナリ茲ニ彌々東洋貿易ニ從事スル目的ヲ以テ千六百年十二月三十一日東いんど商會(the Company of merchants of London trading into the East Indies)ヲろんどニ設立セリ、商會ノ第一航海ハ翌年二月出帆セル五隻ノ艦隊カナシタルモノニシテ其後いんどヨリ進ンテ南洋ニ來リじやば島ノばんたんヲ根據トシテ南洋貿易ニ從事セリ、いざりす東いんど商會カ支那及ヒ日本ト通商セント欲セシハ當初ヨリノコトナリシカ千六百年ニ至リ艦隊ニ國王ゼービす一世(James I)ヨリ日本皇帝ニ宛テタル書ヲ與ヘ機ヲ見テ日本ニ至ルヘキコトヲ命シ千六百十一年ノ艦隊ニモ亦同様ノ書簡ヲ與ヘばんたんヨリ直ニ日本ニ航スヘキコトヲ訓令セリ、司令官じよんせーりす(Captain John Saris)ハ三隻ノ船ヲ率キテ千六百十一年四月出帆シ翌年十月ばんたんニ着シ同所ニ於テ準備ヲ整へくろゝぶ號(The Clove)ニ乘リ英人七十四名いすばにや人一名日本人一名黒人五名ヲ率キテ千六百十三年一月十五日出港シ六月十一日慶長十八年四月十三日平戸ニ着セリ、



是ヨリ先キ慶長五年豊後ニ漂着セシおらんだ船りゝふて號ノ航海士ニシテ英人ナルウイリヤむ、あだむすハ爾來日本ニ留リ家康ニ用ヒラレテ外國人應接ノ事ニ幹旋シ又其命ニヨリテ西洋形帆船ヲ造レルコトアリ、漂流呂宋太守どんろどりごヲめさしこニ送還セシハ其一ナリキ、あだむすハ日本貿易ノ利益アルヲ見好便ニ託シテ南洋ニアル其未見ノ同邦人ニ書(一六一一年十月一日附)ヲ送り日本ト通商センコトヲ勸誘セリ、せりすハ日本ニ到着セハあだむすニ周旋ヲ依頼スヘキ旨ノ訓令ヲ受ケばんたんニ於テハ同所ニ着シ居タル前記ノ書簡ヲ見タレハ平戸ニ着スルヤ直ニあだむすニ通シ其來着ヲ待チテ諸事ヲ協議シ八月七日平戸ヲ發シテ駿府ニ至リ九月八日家康ニ謁シテぜりす一世ノ書ヲ呈シ通商ノ許可ヲ請ヒ次テ江戸ニ至リテ秀忠ニ謁シ歸途再ヒ駿府ニ立寄り特許狀及ヒいざりす王ニ贈ル書簡ヲ受取リテ歸途ニ就ケリ十一月六日平戸ニ歸着シ二十六日會議ヲ開キテ同所ニ商館ヲ置クコトヲ決シ商館長こつくす(Richard Cooks)以下英人八人日本人通譯三人ヲ以テ館員トナシせりすハ十二月五日出帆歸國ノ途ニ就ケリ、せりすカイざりす商館ノ爲メニ得タル通商上ノ權利

ハ十分ナルモノニシテ他歐洲人ノ得タルモノヨリモ完備セルハあだむすノ盡力與リテカアリキ左ニ其條項ヲ掲クヘシ

- 一 いざりすより日本へ今度初而渡海之船萬商賣方之義無相違可仕其渡海仕付而は諸役可令免許事
- 一 船中之荷物之義は用次第に目錄に而可召寄事
- 一 日本之内何之港へ成共著岸不可有相違若難風逢帆楫絶何之浦々へ寄候共異議有之間敷事
- 一 於江戸望之所に屋敷可遣之間家を立致居住商賣可仕候歸國之義何時にてもいざりす人可任心中付立置候家はいざりす人可爲儘事
- 一 日本之内に而いざりす人病死など仕候者共之荷物無相違可遣之事
- 一 荷物おしかい狼籍仕間候事
- 一 いざりす人之内徒者於有之者依罪輕重いざりすの大將次第可申付事

右如件

慶長十八年八月二十八日



いんきらていら *Inglaterra* 即チ  
いぎりすナリ

平戸ノいぎりす商館ヨリハ大阪ヲ中心トシテ京都堺ノ商人ト直取引ヲナス爲  
メニ館員一名ヲ大阪ニ派シ江戸及ヒ駿河ニ於テ販路ヲ開ク爲メ江戸ニモ亦一  
名ヲ出張セシメ對島ヲ經テ朝鮮トモ通商セント計レリ又時々交趾及ヒ暹羅ニ  
船ヲ送リテ日本ニテ需用スル商品ノ仕入ヲ努メタリ元和二年外國人ノ内地居  
留ヲ禁セラル、ニ及ヒいぎりす人モ亦江戸大阪ノ出張員ヲ引上ケ平戸ニ於テ  
ノミ貿易ヲ營ムコトヲ許サレタリ此時幕府ヨリ與ヘタル朱印ハ左ノ如シ

一 自伊祇利須至日本國渡海商船、於平戸可賣買、他所不許之、縱令雖遭風波之  
難到本邦之地、不可有異議、竝諸役免除之事、

一 船中資財隨所思、以目錄可召寄事、

一 不可有押買狼籍事

一 彼國人、若有病死之輩者、其荷物不可有相違事

一 船中商客、於有罪科者、任其國法、可隨船主心事

右可相守此旨者也

元和二年八月二十日

いぎりす商館ハばるとがる、おらんだ等商館ノ競争ノ爲メ初ヨリ利益尠カリシ  
カ貿易地ヲ平戸ニ限ラル、ニ及ヒテハ彌々競争劇シク一時ハ蘭英兩國商館員  
平戸市ニ於テ相闘フニ至レリ、兩商會ノ同盟成立シ聯合艦隊平戸港ヲ根據地ト  
ナセル時代ハ英商館ノ最モ多忙ニ且繁昌ナル頃ニシテ元和七年ノ如キハ船艦  
ノ修繕及ヒ食料品、軍需品供給ノ費トシテ支出セル所一萬磅ニ達シ捕獲品ノ利  
ハ元和八年ニハ四萬磅ナリシト云フ然レトモ此ノ如キ盛況ハ暫時ニシテ三年  
ノ後同盟破ル、ニ至リテ蘭英兩商會ノ競争ハ舊態ニ復シ、英商館ハ終ニ壓倒サ  
レばんたんに在ルいぎりす東いんど商會ノ東洋本部ハ元和八年平戸商館ノ引  
上ヲ命シこつくす等カ急ニ之ヲ實行セサルヲ見テ翌年更ニ嚴シキ命令ヲ發シ  
特使ヲ出シタレハ商館ノ貸附金總計約四千磅ノ取立ヲおらんだ商館長ニ托シ  
同年十月商館員一同ぶる號(*The Bull*)ニテ平戸ヲ發シ十一月末ばたびやニ着セリ  
英商館ハ右ノ如ク存在期限僅ニ十一年ニシテ館員ヲ引上ケタレハ其利益モ多  
カラス當初ニ得タル權利ノ大ナリシニ比シテハ其結果殊ニ不良ナリシカ其原



因ハセゝりすカあだむすノ勸告ヲ聞カス家康ノ希望ニ背キ商館ヲ浦賀ニ置カスシテ平戸ニ設ケおらんだ商館ト劇烈ナル競争ヲナスニ至リシトこつくす初メ商館員ノ事務ニ疎カリシトニ在ルカ如シ、ういりやむ、あだむすカ元和六年四月ニ死シタルコトモ亦商館ノ倒ル、ニ至レル一ノ理由ナリ、あだむすハ永ク日本ニ在リテ國情ニ通シ又家康ノ寵ヲ受ケ其勤功ニヨリ相州三浦郡邊見ニ采地ヲ賜ハリ三浦安針(按針ハ航海ノ義ナリ)ノ名ハ内外ノ商人ニ知ラレ居タリ、彼カ幕府ニ於ケル其信用ヲ利用シテ英商館ノ爲メニ盡クシタル所モ尠カラサリシカハ其死ハ英商館ニ取リテハ大打撃ナリシナラン、あだむすハ平戸ニ於テ死シ其墓ハ邊見ニ在リ東京日本橋區安針町ハ其邸宅ノ在リシ所ニシテ其名ヲ町名ニ存セリ、あだむすノ子じよせふハ父ノ死後封ヲ繼キ三浦安針ノ稱ヲ襲ヒテ外國航海ニ従事セリ、

慶長十八年セゝりすカ平戸ニ着シテ後間モナク居留支那人ノ頭人あんだつす(Andasse)又ハあんどれあ、ぢつちす[Andrea Dittis]ト呼ハレタル人ニシテ顔思齊ナラント云フモノアリヨリ家屋ヲ借用シ其翌年ニハ日々百餘人ヲ使役シテ商館

ヲ新築セルコト當時ノ館員ノ通信ニ見エ、元和七年ニ住宅倉庫及ヒ棧橋ヲ建築シ此時使備セルモノ多キ時ハ一日人足二百四十一人大工八十人ニ上リ工事ハ一月末ヨリ五月末ニ亘リ、材木ハ大村ヨリ、瓦ハ田平、飯盛、石材ハ名護屋ヨリ取寄セシコトハ當時ノ記録ニ見エタリト雖モ、おらんだ商館跡ノ崎方ニ現存スルニ反シいざりす商館ハ全ク痕跡ヲ留メス、平戸ノ舊記録ナル小澤書留ノ「居所町並エゲレス崖」ト云ヘルモ何處ヲ指セルカ明ナラサリシカ、ねらんだノ都ヘ(The Hague)ノ古文書館ニ元和七年製ノ平戸ノ圖アリ圖中ニ二種ノ國旗アリ一ハねらんだノ三色旗ニシテ今日ねらんだ塀ノ存スル邊ニ畫キアリ又一ハ白地ニ赤十字ノ旗ナリ(此ハいざりす國ノ守護神せん、と、じよーじ [St. George]ノ十字ヲ表シタルモノニシテ、現今ノいざりすノ國旗ハいざりすトすこつとらんどトあいるらんどト聯合シタル後すこつとらんどノ國旗青地ニ守護神せん、と、あんどりゆー [St. Andrew]ノ白×字トあいるらんどノ國旗白地ニ守護神せん、と、ばとりつく [St. Patrick]ノ赤×字トあいるらんどノ國旗白地ニせん、と、じよーじノ十字ヲ合セタルナリ)此十字旗ノ畫キアル所カイざりす商館ノ所在地ナルハ明ニシテ、いざりす



商館ハ平戸ノ西南端ノ小川ノ岸ニアリシヲ知ルコトヲ得タリ、商館員カ平戸ヲ引拂ヘル時建築物ノ保管ヲ領主ニ委託セルカ、十分ノ手當ヲ加ヘサリシカ漸次崩壊シ庭ハ雜草生ヒ茂レル由其頃ノねらんだ人ノ通信ニ見エ、寛永四年ニハ蘭館ノ長ヨリじやば總督ニ宛テ平戸ノ領主舊英商館ヲ蘭人ニ賣渡セル由英人間ニ囑スル趣ナルカ彼ノ如キ破屋ヲ購ムル必要ナク、領主ヨリ之ヲ贈ラントスルトモ受ケサルヘシト云ヘリ、以テ此商館ノ建物カ當時既ニ頽廢セルヲ推知スヘシ、

平戸商館員引上ケノ時代ハ極東ニ於ケルいざりすノ勢力最モ薄弱ナリシ頃ニシテ千六百二十三年ニハいざりすノ商人あんぼいな島(Ambon)ニ於テねらんだ人ノ爲メニ虐殺セラレ、翌年終ニ南洋諸島ヨリ退去セサルヘカラサルニ至リシカ、いんどニ於テハいざりすノ商會ハ漸次勢力ヲ得千六百四十年ニハまどらす(Madras)ニ殖民ヲ置キ次イテ之ヲ該地方統治ノ中心トシ千六百四十五年ニハべんがる(Bengal)其他數ヶ所ニ商館ヲ設ケ千六百六十八年ニハ英王ちやーれす二世(Charles II)ヨリぼんべー(Bombay)ノ贈與ヲ受ケタリ

此頃曩ニ蘭人ヲ逐ヒテ臺灣ヲ占領セル鄭成功ノ子鄭經外國貿易ノ利アルヲ見テ外人ノ臺灣通商ヲ勸誘セシカハいざりす東いんど商會ハ之ニ應シ千六百七十年九月十日通商條約ヲ定メ臺灣ニ商館ヲ置キ廈門ニ出張所ヲ設ケタリ、千六百八十二年ばんたんノ東いんど商會支社ハ臺灣ノ危殆ニ迫レルヲ見テ商館ノ引上ヲ決議セシカスル間ニ清兵終ニ渡臺シ商館ノ撤退ヲ許サス又司令官等ヨリ支那本土トノ通商ヲ許スヘキヤノ内議アリシ爲メ一時滞在セシモ千六百八十四年館員ノ一部ハ暹羅ニ移リ、翌年ノ初メ殘員全ク引上ケタリ、而シテ其ノ收メ得タル利益ハ甚タ多カラス鄭氏滅亡ノ際政府及ヒ大官等ノ負債總額一萬磅ヲ超エ到底回收ノ見込ナキモノ千五百磅ニ上リシト云フ、

商會カ臺灣政府ト協定セシ條約ハ當時ノ貿易ノ状態ヲ推知スルノ一助トナルニヨリ左ニ掲ク、

- 一、臺灣王ノ船ハ海上ニ於テいざりすノ國旗ヲ掲ケタル船ニ危害ヲ加ヘサルヘシ。
- 二、英人ハ何人ニモ隨意ニ商品ヲ賣却シ亦何人モ自由ニ英人ト貿易スルコ



- トヲ得ヘシ。
- 三、英人ハ鹿皮、砂糖、其他臺灣ノ產物ヲ隨意ニ日本、或ニ他ノ地方ニ輸出スルコトヲ得ヘシ。
- 四、臺灣ニ於テ英人ニ對シテ危害ヲ加ヘ又ハ損失ヲ被ラシムルモノアルトキハ臺灣王ハ賠償ノ責ニ任シ、英人ノ加ヘタル危害及ヒ損失ハいざりす商館長之ヲ處理スヘシ。
- 五、英人ハ何時ニテモ隨意ニ國王ニ接見スルコトヲ得ヘシ。
- 六、英人ハ通譯書記等ヲ隨意ニ選擇シ、行歩ノ際支那人ノ同行監視ヲ受ケサズルヘシ。
- 七、いざりすノ水夫死亡セルトキハ商會ハ支那人ヲ雇傭スルコトヲ得ヘシ。
- 八、いざりす商館ハ船舶出入ノ際ニ水先案内ヲ雇ヒ、又荷物積卸ノ爲メ短艇ヲ借用スルコトヲ得ヘシ。
- 九、商館ハ國內ノ賣買ニ用フル尺度及ヒ秤量ヲ借用スルコトヲ得ヘシ。
- 十、國王又ハ商人ヨリ商館ニ賣渡スヘキ物品ハ時價ニヨルヘシ、若シ然ラサル場合ニハ商館ハ其買受ヲ拒絕スルコトヲ得ヘシ。

- 十一、商館ハ隨意ニ金銀ヲ輸出シ得ヘシ。
- 十二、英人ハ必要ト認ムル場合ニハ商館ヲ引上ケ商館附屬ノ諸品ハ持去ルコトヲ得ヘシ。
- 十三、英人ハ國旗ノ掲揚ヲ許サルヘシ。
- 十四、商館ニ對スル債務ヲ果スコトヲ拒ムモノハ國法ニヨリテ處分セララルヘシ。
- 十五、商品ノ輸入ハ隨意ニシテ國王ハ何物モ禁制品トナスコトナカルヘシ。
- 十六、いざりすノ船員ハ商館長ノ許可ナクシテ支那船ニ乗組ムコトヲ得ス。
- 十七、牛ハ每週唯一匹ヲ屠ルコトヲ得ヘシト雖モ其他ノ食料品ハ隨意ニ購入シ得ヘシ。
- 十八、國王ノ買上品ニ對シテハ關稅ヲ拂フコトナカルヘシ。
- 十九、輸入米ニハ課稅セサルヘシ。
- 二十、商館ハ此等ノ條件ノ外必要ニ應シテ更ニ他ノ條件ヲ要求スルコトヲ



得ヘシ。

右ノ條件ニテ貿易ヲ許スニ付臺灣王カイギリス商館ニ要求セシ所ハ左ノ如シ。

一、臺灣王ハモトおらんだノ有タリシ商館ニ倉庫ヲ増築シテいギリス商館

ニ貸與スルニ付商館ハ借賃トシテ一ケ年五百(兩カ)ヲ支拂フヘシ。

二、輸入品ニハ賣上高ノ三分ヲ課税シ、輸出品ハ無税タルヘシ。

三、臺灣ニ入港スル船舶ハ銃砲、彈藥及ヒ武器一切ヲ政府ニ預ケ、出帆ノ際返

付セララルヘシ。

四、商館ハ二人ノ砲手ヲ留メ臺灣王ノ用ニ供スヘシ。

五、商館ハ大砲鑄造ノ爲メ常ニ鍛冶一人ヲ留メ置クヘシ。

尙ホ臺灣王ハ

- 一、火藥 二百樽
- 一、銃 二百挺
- 一、英鐵 一百擔(Picul)
- 一、胡椒 三百擔
- 一、上緋羅紗 二十反
- 一、上黑羅紗 十反
- 一、上青羅紗 十反
- 一、枝珊瑚及ヒ珊瑚珠

一、色嗶岐端(Perpetuano)

一、琥珀(Amber)

一、栴檀 一百擔

一、サラムバール(Sallampore)及ヒモーリー

(Mooree)以上兩種スンドノ織物) 二百反

ヲ年々輸入センコトヲ商會ニ請求セリ、

ろんどんノ東いんど商會本社ハ日本商館閉鎖ノ報ニ接シタル後直ニ再ヒ日本

貿易ヲ開始センコトヲ計畫シ屢々ばんたんニ向ケテ訓令ヲ發セシカ種々ノ障

碍ノ爲メ實行スルコト能ハサリキ千六百七十一年ニ至リりたゝん號(Return)及

ヒえきすべりめんと號(Experiment)ノ二隻ヲ派遣シ臺灣ヲ經テ日本ニ航セシム

ルコトニ決シ、日本商館ノ役員及ヒ其俸給ヲ定メ、臺灣國王ニ日本皇帝宛ノ添書

ヲ請フコト、シ、英王ノ書狀并ニ前年幕府ヨリ與ヘタル通商免狀ノ寫ヲ携ヘ九

月出帆セシメタリ、兩船ハ千六百七十二年五月ばんたんニ着シ同六月十日臺灣

ヘ向ケテ出帆シ、七月五日着、えきすべりめんと號ハ砂糖鹿皮等ヲ積込ム爲メ同

所ニ留リ、りたゝん號ノミ翌年六月十日出帆シテ二十九日長崎ニ着シ長崎奉行

ヲ通シテ再ヒ貿易ヲ開クノ許可ヲ幕府ニ乞ヒシカ是ヨリ先キばたびやノおら



んだ總督ヨリ長崎ノおらんだ商館長へ英船ノ渡來ヲ豫告シ競争ヲ豫防センカ  
爲メいざりす國王ハぼるとがるノ縁戚ニシテ同一宗教ヲ奉スルモノナルコト  
ヲ幕府ニ密告セシメタレハ幕府ハ之ヲ信シ通商ノ許可ヲ與ヘス船員ノ上陸ヲ  
モ許サスシテ八月二十八日歸航セシメタリ、但シ食料品其他必需品ハ之ヲ供給  
セシメタリ、此事ノ詳細ハけじへる(Kaempfer)ノ日本史卷末ノ附録日本日記(The  
Japan diary)及ヒ長崎古今集覽所載ノ寛文十三年丑五月二十五日多げれす入津  
萬覺帳多げれすかびたん阿蘭陀かびたんニ被成御尋候色々ノ兩記録ニ就イテ  
知ルコトヲ得ヘシ、東いんど商會ハ此後モ常ニ日本貿易ノ再興ヲ企テツ、アリ  
シカ意ノ如クナラス千八百〇八年十月ふえーとん號(Phaeton)蘭船ヲ逐ヒテ長崎  
ニ入港セシコトアリ、千八百十三年いざりす人じあばヲ占領シタル後軍艦二隻  
ヲ長崎ニ送り商館員ヲ更エいざりすノモノトナサントセシカ館長ドール(Doerflinger)  
前年長崎ヲ荒ラセシ英人ノ來レル趣ヲ幕府ニ訴ヘシ爲メ謀成ラス却テ日本人  
ノ襲撃ヲ避ケンカ爲メ急ニ出港シ維新ノ際ニ至ルマテ終ニ其目的ヲ達スルコ  
ト能ハサリキ、

いんどニ於テハいざりすノ勢力増大スルニ從ヒ其頃南いんどニ據レルふらん  
す人ト衝突シ千七百四十八年來ぼんぢちえり(Pondicherry)ノ太守ぢゆぶれー  
(Duplex)トくらス(Robert Clive)トノ間ニ數次ノ戦争アリ、くらくらいぶ屢々勝利ヲ得  
千七百六十年ニ至リいざりす優勝ノ位置ヲ占メ次イテべんがるニ於テ政權ヲ  
收メ千七百七十四年ヘイすちんぐす(Warren Hastings)さんど總督トナルニ及ヒ  
いざりすノ勢力彌々強固ニナレリ、  
商會カ千六百二十年マテニいんどニ出タセシ船ハ七十九隻ニジテ内二十隻ハ  
或ハ難破シ或ハ蘭人ニ捕獲セラレタリ殘餘ノ船舶ノ搭載シ歸リシ商品ハ原價  
三十五萬六千餘磅ニシテ賣上高ハ百九十萬磅以上ナリシト云フ、いざりすノ勢  
力強盛トナルニ及ヒ商會ノ收入ハ多額ナリシモ隨テ支出多ク社員中私利ヲ謀  
ルモノアリ商會ノ純益ハ却テ少ナカリキ、サレハ千八百十三年いざりす政府ハ  
何人モ自由ニいんどニ通商貿易スルヲ許可セシニ千八百十年一百万磅ニ過キ  
サリシ貿易額千八百十九年ニハ三百万磅以上ニ達シ貿易公開ノ利ヲ認ムルヲ  
得シカハ千八百三十三年商會ノ特許期限經過セシ後貿易獨占權ヲ棄テシメ唯



タ政治上主權ヲ有スルニ止メタリ、千八百五十七年土人ノ暴動アリ商會ノ力能ク之ヲ制スル能ハサリシヲ以テいざりす政府自ラ之ヲ鎮壓シテ翌年十一月一日いんどノ主權ハ英國女王ニ歸シいんど皇帝ノ尊號ヲ併有スルコト、ナレリ、

## 第九章 南北あめりかノ發展

發見時代ハ實ニいすばにや極盛ノ頃ニシテちや、れす五世ハどいつ帝國、低地諸邦ふるごんぢー(Burgundy)し、りや(Sicily)ヲ併セ領シふいりつぶ二世ノ代ニハ更ニぼるとがる、みらんヲ併セあふりかニ新領土ヲ得又ふいりつびん群島、もろつか諸島、めさしこ、びる、ちりヲ領スルニ至リシカ其ノ新領土ノ經營ニ於テハ一ニ金銀ヲ得テ母國ヲ富マスヲ目的トシ母國ノ天產物及製造品ノ販路ヲ開カシカ爲メ殖民地ノ殖産興業ヲ阻害セシカ故ニ殖民地ノ發達ヲ見ル能ハサリシノミナラス、母國ニ於テモ一時多額ノ金銀流入セシヲ以テ人民奢侈ヲ極メ氣候溫暖ナルカ故ニ元來勤勉ナル能ハサリシいすばにや人ハ一層怠惰放逸ニ流レタリ、加之有爲ノ人物ハ多ク新發見地ニ向ヒシ爲メいすばにやハ漸ク衰運ニ向

ヒ且ツひりつぶ二世きりすと教ノ保護者ヲ以テ自ラ任シ新教ヲ防止シ宗教裁判所ノ職權ヲ濫用シテ無辜ノゆだや人及ヒもろ人(Moors)ヲ放逐セル結果ハ工藝並ニ商業ニ熟達セルモノヲ失ヒ大ニ商工業ノ衰微ヲ來タセリ、右ノ如クいすばにや本國ニ於ケル商工業ハ衰頽シ一時世界ニ有名ナリシ絹及ヒ革ノ製造モ減少シ輸出品ハ單ニ羊毛、葡萄酒、油、菓實等ノ農產物ニ限ラル、ニ至レリ、

めさしこ及ヒ南米ノ殖民地ハ母國ノ殖民政策右ノ如クナリシカ故ニ漸ク發達スルト共ニ母國ノ治下ニ在ルヲ好マス北米合衆國獨立ノ業成レルヲ見テ彌々獨立ノ希望ヲ強クシ、あるぜんちんハ千八百十六年、ころんびやハ千八百二十年、めさしこハ千八百二十二年、べる、及ヒ中央あめりかハ千八百二十四年、ちりハ千八百二十六年、べねずえらハ千八百三十一年ニ母國ノ軛ヲ脱シ、爾來農工商業興隆シここー(Cocoa)、藍、烟草、甘蔗ノ産額増加シ、牧畜獎勵ノ結果牛羊豚及ヒ生皮ノ輸出多クナレリ、  
ぶらじる(Brazil)ハとるてしりやす(Tordesillas)ノ協約ニヨリぼるとがるノ領域



ト決セシカ、いすばにや人ノあるぜんちんニ勢力ヲ扶植セシ結果トシテ此地方モ亦其ノ勢力範圍ニ歸スルノ恐レアリシヲ以テ千五百三十年ばるとがる王じよん三世 (John III) 四百ノ兵士ヲ五隻ノ船ニ乗組マシメテ此地方ニ派遣セリ、之ヲ率キシハまるちん、あるふねんど、で、そ、ー (Martin Alfonso de Sousa) ニシテ、ぶらじるニ着スルヤ自ラ其沿岸ヲ探檢シ且ツ其部下ヲシテあまぞん河口 (Amazon) ノ探檢ヲナサシメ、せんとびんせんと (St. Vincent) ノ市ヲ建テタリ、是レ此地方ニ於ケル最初ノばるとがる殖民地ナリキ、千五百三十二年ばるとがる王ハ葡領あめりか即チぶらじる地方ヲ數多ノ管區ニ分チ、各管區ハ皆テ海岸ニ沿ヒ各々其ノ司令官ヲ戴ケリ、其ノ中最モ繁昌セシハせんとびんせんとナリキ、千五百五十八年ぶらんすノ新教徒此地ニ遠征隊ヲ派シリを、で、じやねゐろ (Rio de Janeiro) ノ河口ニ上陸シテ殖民セシカ、葡人之ヲ襲ヒテ千五百六十七年餘儀ナク歐洲ニ歸航セシメタリ、此ノ如クシテ海岸地方ハ漸ク葡人ノ勢力範圍ニ歸シタルカ内地ノ征服ハ更ニ長日月ヲ要セリ、而シテ初メ十一管區ニ分テタルヲ千五百七十三年ニハ二ニ減シ、千五百七十七年ニハ更ニ一トナシ、都ヲりあ、で、じやねゐろニ定メタ

リ、千六百四十年ばるとがるカイすばにやヨリ獨立セシ後大ニ此地方ノ開拓ニ意ヲ用ヒタレハ産業大ニ興リ甘蔗廣ク耕作セラレ金及ヒ金剛石多額ニ産シ蘇木藥種及ヒ皮革ト共ニ盛ニ外國ニ輸出セラレ、ニ至レリ  
ふろりだ地方ニいすばにや人カ探檢隊ヲ出セシコトハ前ニ述ヘシカ北あめりか開拓ノ率先者ハふらんすノ航海士かるちぬー (Jacques Cartier) ニシテ千五百三十四年始メテ北米ニ航シにゆゝふあうんどらんど (New Foundland) ノ西岸ニ着シ翌年せんとろゝれんす (St. Lawrence) 灣ニ入り同名ノ河ヲ上リテもんとりあゝ (Montreal) ニ到リ、千五百四十年ニハ更ニ其上流ヲ探檢シテ終ニカナダ地方ニふらんすノ殖民地ヲ置クニ至レリ、次イテ佛人ハ湖水地方ニ進ミ千六百七十三年みしゝつび河 (Mississippi) ヲ發見シ之ヲ下リテ海ニ至リ、其兩岸ヲ占領シ、國王ルシ十四世ノ名ニ因ミルシじやな (Louisiana) ト稱ヘタリ (一六八二年)  
いざりす人ハあめりかニ其力ヲ用ヒント欲シ第十六世紀ノ後半ニ西北ノ航路ヲ取リテ屢艦隊ヲ東方ニ派遣セシコトアリ、千五百八十八年ぶらんす、どれ、く (Francis Drake) 三年餘ノ日月ヲ經テ世界ヲ周航シテ無事ニ歸國シ、千五百八十



四年ニハサーウチーナー( Sir Walter Raleigh) 多りあつて( Queen Elizabeth) ノ特許ヲ得テあめりかニ航シ、未タ基督教國ニ屬セサル土地ヲ占領セント欲シ終ニふろりだ( Florida) ノ北岸ヲ探檢シテ歸國セリ、其翌年ろりーノ部下相謀リテ此地ニ百八十人ノ殖民ヲ置カントセシカ土人ノ反抗ニヨリテ失敗ニ歸セリ、然レトモあめりか殖民ノ計畫ハ實ニ此舉ヲ以テ嚆矢トス、降リテ千六百六年ゼーむす一世( James I) ノ許可ニヨリ、ろんどん、こむばにー( London company) 及ロぶりもす、こんばにー( Plymouth company) ノ二殖民會社設立セラレテ、一ハ南ばーじにや( South Virginia) 一ハ北ばーじにや( North Virginia) ノ殖民ニ從事シテヨリ、米國ノ殖民事業ハ次第ニ進歩シ、千六百二十年清教徒ノ一派ナルびるぐりむ、ふあざーす( Pilgrim fathers) 等英國ニ於テ信教ノ自由ヲ得サルカ爲メにゆい、いんぐらんど( New England) ノぶりもす( Plymouth) ニ殖民シ、千六百三十年ニハまざちゆせつ( Massachusetts) ノちやーれす、たうん( Charles-Town) 翌千六百三十一年ニハにゆい、はんぶしやー( New Hampshire) 千六百三十六年ニハこんねちかつと( Connecticut) 千六百三十七年ニハろーどあいらんど( Rhode Isd) 千六百六十三年ニハ南北かる

りな( South Carolina) 千六百六十四年ニハにゆい、よーく( New York) にゆい、ぜるしー( New Jersey) べらうえあー( Delaware) 千六百八十三年ニハべんしるばにや( Pennsylvania) 千七百三十三年ニハじよるじや( Georgia) 等ノ殖民地出來、此等諸地ニ於ケル英國殖民ノ數ハ忽チ激増シ千六百八十八年ニハ二十萬人餘ニ過キサリシモノ千七百十四年ニハ三十七萬五千餘ニ上リ千七百五十六年ニハ百三十萬ニ達セリト云フ、而シテ此等ノ殖民地ヨリハ煙草、米、穀類、生皮、毛皮、魚類等ヲ其本國ニ輸出シ其額モ漸次増加ノ傾向アリキ、いざりすノ殖民地盛大ニ赴ケルニ從フテふらんす殖民地トノ競争ヲ生セリムらんすノ殖民地ニハ要塞ノ設備軍隊ノ配置整頓セシヲ以テいざりす人ニ取リテハ甚タ強敵ナリシカふらんすノ殖民ノ數甚タ尠ナク千七百五十七年頃英人ノ遠ク百萬ヲ超エタルニ當リ僅ニ六萬ヲ有スルニ過キス、結局英人ハ次第ニ勢力ヲ加ヘタリ、七年戦争ノ頃ハ兩國ノ競争ハ益々其度ヲ高メ千七百五十八年ニハ英人あはいお( Ohio) 河畔ノぢゆけーぬ( Duquesne) 砲臺ヲ占領シ、千七百五十九年ニハけべつ( Quebec) 千七百六十年ニハもんとりあー( Montreal) ヲ攻取シ、千七



百六十三年ノばり條約ニヨリテるいじやな州ヲ除キ北あめりかノ舊ふらんす領ハ悉ク英人ノ手ニ歸セリ、  
 たらんだカあめりかニ着目セシハ其發見後百年頃ノコトニシテ初メハ其國力強カラサリシ爲メいすばにやニ憚リテ大ニ力ヲ用フルコトナカリシカ英人へんり、ほどそん(Henry Hudson)たらんだ東いんど商會ノ爲メニ北米ニ航シ千六百九年ほどそん河ヲ發見セシ後引續キ此地方ニ航シ千六百十三年ニハまんはたん島(Manhattan Isd)ニ貿易根據地ヲ置キ千六百十二年南米ぎやな(Guiana)ニ殖民地ヲ開キ終ニ低地新聯合會社(United New Netherlands Company)ヲ設立シテあめりかノ殖民貿易事業ニ當ラシメタリ、千六百二十一年前會社ノ特許滿期ニ及ヒたらんだ西いんど商會(Dutch West India Company)代リテ起リまんはたん島ノ小殖民地大ニ發達シテ新あむすてるだむ(New Amsterdam)ノ稱ヲ得之ヲ中心トシテ漸次こんねちかつとにゆゝぜるし、でらうえや、べんしるばにや諸州ニ殖民シテ新ねざらんとト稱シ太守ヲ置キテ其治ニ當ラシメ又西葡兩國ト海上ニ爭ヒ其船舶ヲ捕獲セシコト抄カラス南米きゆらちも(Curacao)島ヲ占領シぶらじ

數多ノ新發明アリテ製造交通運輸ノ上ニ至大ノ變動ヲ生シ各國商業上影響スル所多カリキ、新發明中第一ニ舉クヘキハわつと(James Watt)ノ蒸氣機關ニシテ初メ鑛山用ニ供セラレシカ千七百八十五年英國のつらんがむ州(Nottinghamshire)ニテ始メテ綿糸紡績ニ應用セリ是ヨリ先千七百七十年ニハはるぐり、ぶ(Har-greaves)多數ノ錘ヲ有スル紡績器械すびんにんぐぜんに、(Spinning Jenny)ヲ發明シ千七百七十一年ニハ新發明ノ機械ヲ用ヒテ水力ヲ紡績ニ利用セリ、わつとノ蒸氣機關ヲ紡績ニ應用セル結果綿ノ貿易額爾後十五年間ニ三倍ノ増加ヲ見ルニ至レリ、紡績ニ蒸氣力ヲ應用スルノ一事ハ又石炭ノ需用ヲ増シ隨テ其採掘盛ニ行ハレ石炭ノ採掘額多キカ爲メ之ヲ鑛鑛ニ用フルコトヲ得依テ製鐵ノ事業盛ニ起リ其結果トシテ機械製造ノ材料ヲ増シ各種工業勃興ノ基ヲ置ケリ、之ニ次イテ改良セラレタルハ交通機關ニシテ商業取引ハ之カ爲メニ敏活トナレリ、是ヨリ先キ中世紀ノ頃ニアリテハ商品ノ運搬ハ馬又ハ荷車ニヨリシカ千七百六十一年英國まんちゑすた、(Manchester)ら、すれ、(Worsley)間ぶりつぢわうた、(Bridgewater)運河開鑿セラレ、次イテ國內各所ニ運河ノ開通セラレ河川



ト相待チテ運輸交通上大ナル利便ヲ與ヘタリ、  
 此頃ニ至リテいすばにやハ前ニ述ヘタル如ク國ノ衰微ニ伴ヒテ商業上ノ勢力  
 ヲ失墜シドいつハ國內大ニ亂レテ未タ商業界ニ羽翼ヲ伸ハスニ至ラス、おらん  
 だモ亦英國ノ航海法(Navigation Act)發布ノ爲メニ大打撃ヲ被リテ昔日ノ隆盛ノ  
 影ヲ留メサルニ至リシカ、獨リ英國ハ商業貿易ノ發展著ルシク七年戰爭ノ結果  
 あめりか及ヒいんどニ於テふらんすヲ破リ東西ノ商權ヲ獨占スルノ有様ニシ  
 テ千七百六十三年ヨリ千七百七十三年ニ至ル十年間殖民地ニ對スル輸出額ハ  
 平均二百萬磅ナリシカ千七百九十二年ニハ倍加シテ四百萬磅ニ上レリ、西いん  
 ど地方トノ貿易モ亦殆ント同様ノ進歩ヲナシ彼地方ニ輸入スル額二百萬磅ニ  
 超エ此所ヨリ輸出スル所ノらむ(Puna)砂糖、綿、まほがに、(Mahogany)等ノ價額四百  
 萬磅ニ上リ北米及ヒ南海地方ヨリスル鯨鱈等ノ輸入モ亦増加セリ、  
 佛國ノ革命起ルニ及ヒ英國ノ商業ハ大頓挫ヲ來タシ次イテ千七百九十三年佛  
 國ト戰端ヲ開キシ結果商工業ノ沈衰二十餘年ニ及ヒシカナばれおん(Napoleon I)  
 政權ヲ握ルニ至リ千八百六年十一月二十一日英國封鎖ノ嚴命ヲ下シ英國トノ

るニモ殖民ヲ置ケリ然レトモぼるとがる人カヲ極メテ之ニ抵抗シ漸次之ヲ逐  
 ヒテ千六百五十四年ぶらじるノ地ヲ去ラシメタリ北米ニ於テモいざりす移民  
 ノ勢盛ナルニ從ツテ新ねざらんど殖民地ハ之ニ壓セラレ千六百六十四年末ニ  
 新あむすてるだむヲいざりすニ讓與セリ、今日ノにゆ、よ、く即チ是ナリ、西い  
 んど商會モ漸ク利益尠カリシカハ十八世紀ノ中頃おらんだ政府ハ會社ノ特權  
 ヲ奪ヒ何人モ自由ニ西いんどニ通商シ得ルコト、シ千七百九十年ニハ會社ハ  
 終ニ解散セリ、

北あめりかニ於ケルいざりすノ勢力ハ右ニ述フルカ如ク漸次増大シおらんだ、  
 ふらんす諸殖民地ヲ壓倒スルニ至リシカ、當時いざりすノ殖民政策ハ專ラ母國  
 ノ利益ヲ謀ルニアリ千六百五十一年ニハ航海法(Navigation Act)ヲ發布シテ殖民  
 地ノ輸出入カ英船ニヨラサル可ラサルコトヲ規定シ千六百六十年ニハ又殖民  
 地ノ產物ハ先ツ英國ニ送り然ル後英國ノ商船ニヨリテ各需用地ヘ送ラサルヘ  
 カラサルコトヲ定メ砂糖、糖蜜、生姜、煙草、珈琲、棉花、藍、鐵、獸皮、穀類等ノ重要輸出品  
 ニ對シテハ特ニ此法律ヲ勵行セリ、而シテ千六百六十三年ノ法律ハ殖民地ニ於



テ需用スル外國品ハ英國ノ港灣ニ於テ英船ニ積載セルモノナラサルヘカラサルコトヲ命セリ此ノ如ク輸出入共ニ母國ノ媒介ニヨラサルヘカラスシテ殖民地ハ全ク母國ノ利益ヲ増進スル爲メニ存スルノ狀ヲ呈セシカ英國ハ尙ホ之ヲ以テ足レリトセス殖民地ニ於テ製造業ノ起ラントセルニ及ヒ千七百十九年毛織物製造ヲ禁止シ千七百五十年ニハ又製鐵ヲ禁セリ此等法律ノ爲メ大ニ不便ヲ感セシ移民ハ千七百六十五年英國政府カ七年戰爭ノ軍費ヲ辨センカ爲メあめりか殖民地ニ於テ印紙稅ヲ徵シ次イテ茶がらす、ペンキニ稅ヲ課スルニ及ヒテ大ニ激昂シ千七百七十六年七月七日終ニ獨立ノ宣言ヲ發シ連年戰鬪セシ結果千七百八十三年英國ト媾和シ獨立ヲ認メラル、ニ至レリ、而シテ千七百八十七年七州ノ委員ふいらでるふいや(Philadelphia)ニ會シテ憲法ヲ制定シ合衆國繁榮ノ基ヲ据エタリ、

## 第十章 十八九世紀歐洲貿易ノ狀況

あめりか殖民地獨立ノ頃ヨリ歐洲ニ於テハ政治上并ニ社會上ノ改革續々起リ

(Queensland) 千八百二十九年ニハ西あーすとらりや(West Australia) 千八百三十六年ニハ南あーすとらりや(South Australia) 千八百四十年ニハにゆーじーらんどニ殖民セリ、右ノ如ク濠洲ノ開拓セラル、ト共ニ英國ノ商業モ發達セリ、なぼれおん滅亡後千八百二十年ろんどんノ商人等從來ノ保護政策ヲ打破シテ自由貿易策ヲ取ランコトヲ政府ニ請願シ次イテゑぢんばらノ商業會議所(Edinburgh Chamber of Commerce)モ亦同様ノ建白ヲナセリ、國會ハ委員ヲ選ヒテ其可否ヲ討論シ種々調査ノ結果自由貿易策ヲ採用スルニ決シ次第ニ保護法律ノ廢止ヲ見ルニ至リシカ眞ニ自由貿易政策ヲ取リシハさーろばーとびーる(Sir Robert Peel)ノ内閣ニシテ千八百四十六年穀物稅廢止法案ノ提出アリ、次イテ千八百四十九年同稅及ヒ航海法ノ全廢ヲ可決シ自由貿易主義ノ實行ヲ見ルニ至レリ是ヨリ先キ千八百十四年ニ英人じよーじすちぶんそん(George Stephenson)蒸氣機關ヲ發見シ之ヲ改良シテ陸上運搬ニ應用シ得ルニ至ラシメ千八百二十五年ニ始メテ鐵道設ケラレ千八百三十年ニハまんちえすたーりばぶーる(Liverpool)間ノ鐵道開通セリ、次イテ第十七世紀末ヨリ實驗ヲ重ネタル上英佛米諸邦ニ



テ蒸氣力ヲ航海ニ應用スルニ至リシカ千八百三十八年ニハ、こるく(Cork)發ノシリウス(Sirius)及ヒリバふる發ノぐれーと、うえすたーん(Great Western)ノ兩汽船英米間ノ航海ヲ遂ケシカハ、交通ノ便大ニ開ケタリ千八百四十六年ニハ、ろんどんニ電信會社設立セラレ電信通信ヲ行ヒ其後米人も、るす(Morse)大ニ之ヲ改良セリ、千八百五十年ニハ、最初ノ海底電線英佛間ニ沈設セラレ歐米間ノ海底電線ハ數回ノ失敗ノ後千八百六十六年ニ成效セリ而シテ千八百四十年ニハ、(Hill)氏ノ意見ニ基キペンに、ぼすと(Penny Post)制採用セラレ郵便稅額減セラレタル爲メ大ニ通信ノ便ヲ増セリ此等ノ發明及ヒ改良ハ歐洲一般ニ採用セラレ商業上ニ至大ノ便宜ヲ與フルニ至レリ、

ふらんすハ革命前ヨリ國內擾亂セル爲メ商業全ク衰へなほれおんカ英國ヲ困シムル爲メニ發セル令ハ却テふらんすノ航海業ヲ破滅セシメタルカ同令ハ又外國品輸入ノ途ヲ斷チ其缺ヲ補フ爲メ國內ノ工業ノ勃興ヲ促シ煙草、蜀黍、甜菜等ノ耕作ヲ盛ナラシムルノ效アリキ、なほれおん亡ヒ國內鎮定セシ後商業ハ漸次舊態ニ復シ千八百五十八年ヨリ同六十八年ニ至ル十年間ニハ、其輸出額七千

通信交通ヲ禁シ且ツ佛國及ヒ其同盟國ノ占領セル地方在留ノ英人ハ悉ク之ヲ捕虜トシ其財産ヲ沒收シ英國貨物ノ貿易ヲ禁シ英國又ハ其殖民地ヨリ來ル船舶ノ佛國治下ノ港灣ニ出入スルコトヲ嚴禁セリ此禁令ノ目的トスル所ハ英國ノ商業ヲ破リ以テ報復ヲ計ラントスルニアリシカハ英國ハ之ニ應シテ千八百七年一月及ヒ十一月令ヲ發シテ中立國船舶ノ佛國又ハ其與國ノ港灣ニ出入スルヲ禁シ英佛相爭ヒテ中立國船舶ノ拿捕ニ從事セシカハ世界ノ商業ハ爲メニ大ナル迫害ヲ受ケタリ、

佛國政府ハ英國ノ報復手段ニ出ツルヲ見ルヤ直チニ佛國內ハ勿論獨蘭伊西其他佛兵ノ占領セル地方ニ於ケル英國貨物ノ燒棄ヲ命シ大ニ英國ヲ苦シメントセシカ英國ハ尙ホ北米合衆國北歐諸國及ヒ東西いんどトノ貿易ヲ繼續シ加フルニふらんすノ同盟國中ニモ全ク英國ノ貨物ノ排斥ヲ斷行スル能ハス或ハどこつヨリ或ハべにすヨリ間接ニ其供給ヲ受ケもすこー(Moscow)侵入ノ際ハ佛兵モ皆英國よりく郡(Yorkshire)製造ノ羊毛衣ヲ着セシ程ナリシカ故ニ英國ノ貿易ハ依然トシテ衰微ノ徵ナク千七百九十三年ニハ輸出總額二千萬磅ニ過キサリ



シカ千八百年ニハ三千四百萬磅千八百十五年ニハ五千八百萬磅ニ上リシト云フ、

英國ハ又佛國及ヒ其同盟國ト戰闘中ニモ新ニぶらじる及ヒあめりかニ在ルイすばにやノ諸殖民地トノ貿易ヲ開始シ千七百九十三年ニハ佛國ヨリ西いんどノたばこ島(Tobago)及ヒ東いんどノ諸殖民地ヲ奪ヒ千七百九十六年ニハまらつか、せゝろん(Ceylon)千八百六年ニハ喜望峰ヲおらんだヨリ奪ヒ領土ヲ擴張セルト共ニ其商業上ノ發達モ亦大ナリキ、

たすまにや(Tasmania)及ヒおゝすとらりや(Australia)ハモト蘭人ノ發見セシ所ナルカ千七百六十九年英人きやぶてんくつく(Captain Cook)此地方ヲ航海シテにゆゝ、じーらんど(New Zealand)及ヒにゆゝ、さうす、うゑゝるす(New South Wales)ニ達シ其見聞ニ據ツテ進言スル所アリシカ千七百八十八年英國ハ罪人ヲにゆゝ、さうす、うゑゝるすニ移シ此所ニしどにー(Sidney)市ヲ開ケリ、次イテ羊ノ飼養ヲ獎勵セシ結果羊毛ハ其重要輸出品トナリ十四年後ニハ羊毛ノ輸出額十七萬五千斤ニ達シ飼養セル羊ノ數十二萬頭ニ上レリ、千八百二十四年ニハくゝいんすらんど

五百萬磅ヨリ一億三千二百萬磅ニ上レリ普佛戰爭ハ再ヒ佛國ヲ疲弊セシメシカ又驚クヘキ速度ヲ以テ回復シ農工業著シク發達シ葡萄酒、絹織物、毛織物、木綿、麻織物、がらす、磁器等ヲ多ク産スルニ至レリ、而シテ又千八百三十年以後あるぜりや(Algeria)あふりか西岸とんさん東京、Tonquin)さんとしな(Indo-China)等ノ外國領土ヲ得まだがすかる(Madagascar)ヲ保護國トナシ貿易ノ範圍隨ツテ擴カレリ、

どいつハ英佛兩國相戰ヘルニ乘シテ商業大ニ發達シなばれおんノ禁令ニヨリ外國品ノ輸入困難トナルニ及ヒばーてん(Baden)つーりんぎや(Thuringia)等ニ烟草ヲ栽培シ砂糖製造ノ爲メニ甜菜、珈琲ノ代用トシテちこりー(Chicory)等ノ耕作ヲ盛ニシ麻布、毛織物、銀、石炭等ノ輸出額頗ル増加セリ、普佛戰爭後絹織物及ヒ砂糖製造漸ク盛ニナリ航海業亦大ニ發達シはんぶるぐ(Hanburg)ぶれーめん(Bremen)等ハ盛ナル商港トナレリ、

低地諸邦ハ千八百三十年おらんだ、べるじーゆむ(Belgium)ノ二國ニ分離シおゝすとらりや、いたりや其他歐洲諸國ト共ニ漸次なばれおん戰爭ヨリ普佛戰爭ニ至



ルマテ諸戦ノ爲メニ被リタル害ヲ免カレ商工業發達スルニ至レリ、近世ニ於テ大ニ商工業ノ發達ヲ促シタルモノ、一ハ萬國博覽會ナリ、此ノ如キ博覽會ノ創意者ハ實ニ英國ノ皇婿あるべると親王ニシテろんどん市有力者ノ贊助ヲ得千八百五十一年五月同市はいでパーク(Hyde Park)ニ第一回ヲ開ケリ初メ之ニ反對スル人多カリシカ其成效ヲ見テ爾來歐米各國ニ行ハル、ニ至リ工業ノ競争ヲ起シ進歩開發ヲ促シタリ、千八百六十九年すゑず運河ノ開通ハ世界ノ商業上ニ大ナル影響ヲ及ホセリ抑モ地中海ト紅海トノ間ニハ基督紀元前六百年頃ヨリ水路通シアリシカ同紀元八百年代ニ至リ此路ニヨル船ノ通航止ミ爾來モトノ水道モ沙漠ト變シ終レリ、なほれおん一世えじぶと遠征後此通路ヲ再ヒ開ク計畫ヲナセシ由ナルカ終ニ實行スルニ至ラスシテ止メリ、千八百四十九年ヨリ佛人ふえるぢなんどれせつ(Ferdinand Lesseps)此事業ニ注目シ同五十四年ニ至リテ畧成案シえじぶと總督ノ委托ニヨリすゑず運河會社ヲ組織シ資本金ノ一半ハ總督之ヲ支出シ一半ハ佛國其他歐洲諸國ニ於テ募集セリ而シテ千八百五十五年えじぶとニ於テ萬國

専門家ノ會議ヲ開キテ工事ノ方法ヲ論究シ千八百六十年末ヨリ彌工事ニ着手シ此時ニ至リテ落成シタルナリ、此間種々ノ困難アリシカ能ク之ヲ排シテ成效ニ至ラシメタルハ多クれせつぶノ盡力ニヨレリ、此運河ハ長サ八十八哩アリ地中海ノぼるとさうど(Port Said)ニ始リ數箇ノ湖水ヲ經テ紅海ノすゑず(Suez)ニ終ル初メ水深ハ二十六呎河底ノ幅七十二呎水面ノ廣サ百九十七呎乃至三百二十八呎ナリシカ大船航行ノ便ヲ開ク爲メ千八百九十八年ニ至リテ深サ二十七呎十呎幅百二十一呎四吋ニ増シ爾來浚渫ヲ續ケ深サハ三十一呎ニ幅ハ水深二十六呎三吋ノ處ニテ百十三呎乃至二百六十二呎ニ至ラシメタリ而シテ又中途十數个所ノ幅廣クシテ二船ノ過航シ得ヘキ所ヲ設ケ通航船ノ吃水線モ二十五呎七吋ニ増加セリ、運河ノ開通ト同シ頃ニ螺旋狀推進機(Twin Screw)ヲ汽船ニ用ヒテ遠洋ニ航海スルニ至リシカハ運河ヲ通過スルニ當リテモ帆船ノ如ク風ノ爲メ岸ニ觸レ淺瀬ニ乗リ上ケ又永ク風待スルノ必要ナカリシカハ大ニ運河ヲ利用スルニ至リ東西交通ノ路トシテ是レ迄專ラ用ヒラレシあふりか廻航路ニ代ルニ至レリ此ニ







